

いちょなみき

No. 72

特集
Special Section

揺るぎのない 存在感ある大学へ 国際的な研究・教育拠点として

森田 潔 学長
インタビュー

- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生
有森 雄一さん 外務省 中東アフリカ局
- 研究室訪問 奥平 寛子 労働市場を分析
大学院社会文化科学研究科(経済)准教授
- きらり岡大生 中津 智史 全日本大学囲碁選手権3位
囲碁部 部長
- 女子アイスホッケー部が第1回日本学生女子大会で準優勝
- フィギュアスケート坪井遥司さんが学生氷上選手権で初優勝
- 日本初 スヴァールバル世界種子貯蔵庫にオオムギ種子を保存
- 生殖補助医療技術教育研究センター看板掲揚式を開催
- News & Topics 大学の動き／研究・臨床成果
- 岡山大学東京サテライトオフィス紹介
- 教職員厳選の本を掲載 「学生にすすめる本 2014」



大会館北側に整備された「交流広場」(SANAA 事務所設計)

特集
Special Section

揺るぎのない 存在感ある大学へ

国際的な研究・教育拠点として

森田潔氏が岡山大学の学長に就いてから1期3年間が経つ。
大学運営の方向性を示した「森田ビジョン」を掲げ、
国際的な研究・教育拠点としての「美しい学都」を目指して
次々と大学改革を図ってきた。
大学を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、
今後は岡山大学としてより強固な存在感の確立が求められることになる。
1期目から2期目へ。森田学長がさらなる飛躍を誓う。





Junko Fukutake Terrace (通称：Jテラス) のイメージ



L-café



校友会トレーニング棟と体育系クラブ棟



森田ビジョンの成果と課題

学長に聞く。

森田潔学長が学長1期目の任期を終える。岡山大学はこの3年間で学長の描いた大学像に近づくことができたのか。1期3年間の成果を振り返るとともに、2期目に向けた決意を聞いた。

「学長就任時に岡山大学を『巨大船』に例えられていたが、この3年間でどのくらい前に進んだと考えているか。」

「巨大船」は想像していたよりも重く、まだ前に進んだというイメージはないが、この3年間でやってきたことは間違っていないし、触先を変えていく作業はできたと思っっている。大学は一般企業と違って切り捨てられるところはなく、岡山大学において全7研究科、11学部の存在価値はそれぞれにあり、みんなが頑張らなければならぬ。その中で学内のトップランナーには岡山大学の名前を挙げてもらうことも必要であるし、そのために投資を優先することも理解していただきたと思っっている。

「森田ビジョンで掲げていた、大学と都市・地域が連携した新たな『美しい学』」

「津島地区には校友会のトレーニング棟と体育系クラブ棟を新設し、留学生や学生の交流の場となる言語カフェ(L-café(エル・カフェ))も開設。学生が集える場所が増えた印象だが。」

美しいキャンパスづくりの流れの中で校友会の施設も整備した。正課外活動は学生にとって大学生活の中で大きな割合を占めており、一助になったのではないかと思っっている。「L-café」は大学会館にあった「イングリッシュ・カフェ」を一般教育棟に移転させて開設し、スペースは約3倍と広くなった。外国語会話実践の場としてのニーズも大きく、入場者はあつという間に1万人を達成した。以前本誌特集の企画で学生らと意見交換した際、学生から「授業が終わっても集まれる場所がほしい」という声が上がったが、その意味では役目を果たせているように思っっている。

「国内の大学ランキングでトップ10に入ることを目標に掲げていたが。」
「この大学も努力しており、並大抵の努力では難しいと感じている。少なくとも研究部門の充実を図らなければならぬと感じ、URA(リサーチ・アドミニストレーター)を独自予算で採用。その努力や研究が認められ、文部科学省の」

「L-caféは『グローバル人材育成特別コース』の学生の拠点にもなっている。」
「真の国際化を目指す中で、同コース新設はわれわれの賭けでもある。入学直後に全学部の中から英語の試験・面接を経て選抜された学生はそれぞれの学部にも所属しているわけで、この取り組みを成功させるためには、学生らが自由に集まれ、自然に国際交流できる場所をつくらなければならぬと思っった。現在50人を選抜しているが、将来的に200人まで増やしていきたい。」

「都一の創設はどのくらい進展したか。」

まずは地域における岡山大学の存在価値を高めることを目的に、知的拠点となる岡山大学地域総合研究センター(AGORA)を設置した。岡山県内の自治体、経済界、各種団体などと協働してさまざまなプロジェクトに活発に取り組みしており、成果はあるが、さらに学都構想を具体化させていきたいところ。学生が市民と対話しながら地域の課題解決を目指す「まちなかキャンパス城下ステーション」(岡山市北区石岡町)も効果と存在感はあるように思っっている。岡山駅周辺に2つ目となる医療系の学外拠点が開設できないか検討している。

「美しく気品あるキャンパスの創成についてはどうか。」

「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択された。今年度から10年間のプロジェクトなので非常に大きな予算となり、5年後には予算の見直しで増額もあり得る。岡山大学病院も厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」に採択されており、この2事業に選ばれているのは国立大学では旧帝大と岡山大学だけ。5年後、10年後にはトップ10入りするエネルギーをもらったように思っる。来年度は文部科学省の「スーパーグローバル大学事業」の支援対象30大学になんとしても選ばれたい。」

「千葉、新潟、金沢、長崎、熊本各国立大学とともに6大学で包括的連携協定を締結したが、その狙いは。」

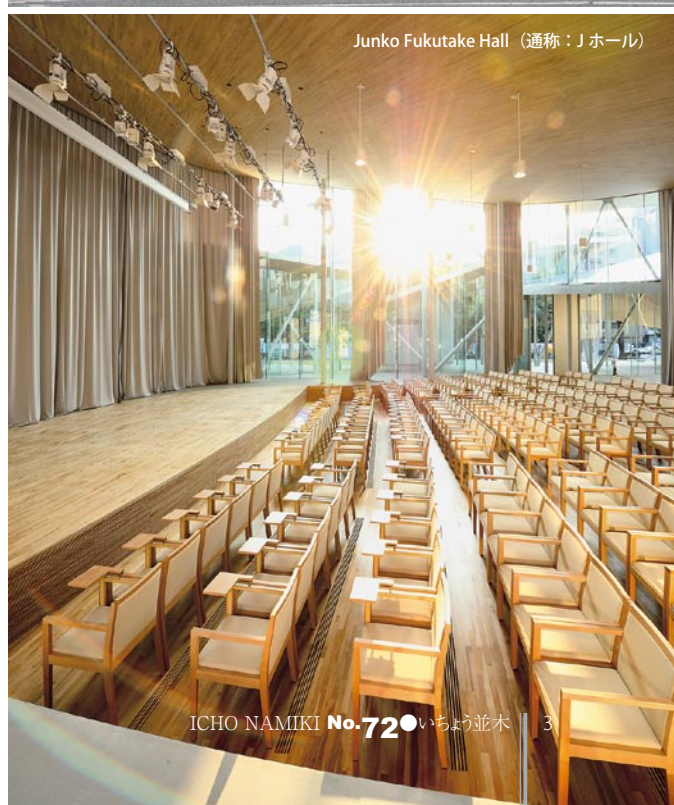
学長就任当初は旧帝大に仲間入りしたいと思っっていたが、それは間違いだつた。岡山大学には旧帝大や地方の大学とも違う地域の中核大学、いわば「地域大学」としての役割があると実感した。「地域大学」の連携を通じて教育・学術研究の機能を強化するとともにグローバル人材育成を推進していきたいと思っる。

「岡山大学同窓会を再編した『岡山大学 Alumni(全学同窓会)』を設立した。」

各学部同窓会の活動に温度差があり、全学同窓会として岡山大学同窓会があったもののアクティビティが低かつた。私としても岡山大学の卒業生というより医学部の卒業生という立場が強かつたが、皆が岡山大学の卒業生だと胸を張って言える雰囲気づくりのためには、全学同窓会なる組織をもっと力強いもの



まちなかキャンパス城下ステーション



Junko Fukutake Hall (通称：Jホール)

の妹島和世氏、西沢立衛氏を学長特別補佐として起用し、助言を受けながら進めてきたが、私自身、この3年間でキャンパスがもう少し変わると思っっていた。ただ、スピードは遅いものの、鹿田地区には「Junko Fukutake Hall」(通称：Jホール)ができ、津島地区も学生会館周辺が整備され交流広場ができ、西門周辺の垣根もなくなり、少しはインパクトがあったのではなからうか。津島地区には来期早々に「Junko Fukutake Terrace」(通称：Jテラス)もできる。南北道路周辺の垣根も撤去し、道がキャンパスを分断している現状を、キャンパスの中を道が走っているような雰囲気にした。鹿田地区と津島地区の一体感が私が学長になる前よりは増したように思っるが、循環バスを運行するなど両地区の行き来がしやすくなるような手段も考えたいところだ。

しなければならぬと思っった。卒業生に加え、在学生や教職員、研究生らも構成員となるわけで、皆に岡山大学への愛を持っていただきたい。そして、岡山大学が取り組む事業を人的・資金的にサポートしていくことのできる組織の必要性も感じた。卒業生らの全国的なネットワークを生かした在学生への就職・留学支援、正課外活動支援なども強化していきたい。

「来期3年間に賭ける思いは。」

少子化による人口減により大学を取り巻く環境は厳しい。森田ビジョンは大学存続を前提にしたものであり、大学の存在自体が問われている中で岡山大学が生き残っていくためには、森田ビジョンではなく、岡山大学憲章をつくらなければならないと考えている。グローバル化に対応できる実践力を持った人材を育成するとともに研究力を強化し、トップ10に入るなど現実的な成果も出しながら、来期3年間で揺るぎのない存在感を構築していきたい。

Interviewer



副編集長 原田 和往 (法学部准教授) | 編集長 後藤 邦彰 (工学部教授)



外務省 中東アフリカ局 ◆岡山大学経済学部卒 経済学研究科修士課程修了

有森 雄一

ARIMORI Yuichi

一度も海外に出たことのないまま外務省職員に。専門とする「アラビア語」を駆使し、「エキサイティング」(有森氏)な中東地域に果敢に飛び込む。

- ▶ありもり ゆういち (49歳)
- 1964(昭和39)年 岡山県岡山市出身
- 1987(昭和62)年 岡山大学経済学部経済学科卒
- 1991(平成3)年 岡山大学大学院経済学研究科修了 修士号(経済学)取得
- 1991(平成3)年 外務省入省(外務省専門職員、専門語学はアラビア語)
- 1992(平成4)年 ヨルダンの首都アンマンにてアラビア語研修
- 1995(平成7)年 在チュニジア日本大使館
- 1997(平成9)年 在カタール日本大使館
- 2000(平成12)年 外務省経済協力局有償資金協力課
- 2003(平成15)年 外務省欧州局ロシア課
- 2006(平成18)年 政策研究大学院大学修了 修士号(開発経済学)取得
- 2007(平成19)年 外務省中東アフリカ局中東第二課

専門はアラビア語

私の専門は「アラビア語」です。外務省で仕事をする上では、英語に加えて専門言語の習得が必要になります。

現在は外務省専門職員として、中東地域のイラン、イラク、アフガニスタン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦(UAE)など10カ国を担当する部署に所属し、各国との二国間関係に携わっています。典型的な業務に要人の往来があり、先方の要人の受け入れや日本の総理大臣、外務大臣の中東訪問を計画、実施しています。2月にはサウジアラビアとUAEの皇太子がそれぞれ来日されました。その際は所属課で宮内庁や首相官邸と調整し、天皇陛下や総理との会談などのアレンジを行いました。

湾岸戦争の影響

就職を考えたとき、関わりたいキーワードが二つありました。「政治」と「外国」です。両立できるものとして、研究者という道も一瞬浮かびましたが、実務も担うことができる外務省を選びました。外務省の仕事には情勢分析のような研究的な要素と政策を実施する実務者としての要素の両面があります。

専門とするアラビア語に興味を持つきっかけは、「湾岸戦争」です。採用試験を受けていた時期

日本を売り込むセールスマンに



外務省

■外務省

所在地：東京都千代田区霞が関
事業内容：日本、世界の平和と繁栄のため、各国との友好関係増進、情報収集や交渉、海外の日本人保護、国際貢献や日本の魅力発信など
職員数：約5,400人

国内の外務省本省と約190の在外館を含め、外交領事事務を行う。

身分証明書の提示・手荷物検査にご協力願います

特別警戒実施中

にイラクがクウェートに侵攻し湾岸危機が勃発しました。連日報道される関連ニュースを見て、中東地域に興味を感じ、入省した際の専門語学としてアラビア語を希望しました。

中東はエキサイティング

入省1年目は、本省で仕事をしつつ研修所で文法を中心にアラビア語研修を受けました。2年目からは3年間、ヨルダンの首都アンマンでアラビア語研修を行いました。この間は言語の習得だけに集中。1年間はヨルダン人の家庭にホームステイさせてもらい、ヨルダン大学のアラビア語講座と家庭教師から学びました。苦勞しながらなんとか通訳ができるレベルにまでなりましたが、正直ほとんど「何も話せない」「何も聞き取れない」状態で行ったので、1年目のストレスは相当大きなものでした。



在カタール大使館勤務時代の有森氏(左)▲

求められる資質は営業力

外務省職員に求められる資質は「営業力」ではないでしょうか。日本を売り込むセールスマンである必要があります。そのためには言葉が通じるのももちろん、日本のセールスポイントもしっかりと掴んでおくこと。その上でこまめな営業活動、つまり、頻繁に足を運び、人脈を形成し、広げていく姿勢が大切です。

学生のみならずにはぜひ、一度は外国を見てほしいと思っています。言葉はできなくても良いのです。外国を訪れたこと、その土地の人と触れあったことがきっかけとなり、その国の言葉を勉強したくなるかもしれません。行けばきっと何か新たに感じるものがあるはずです。

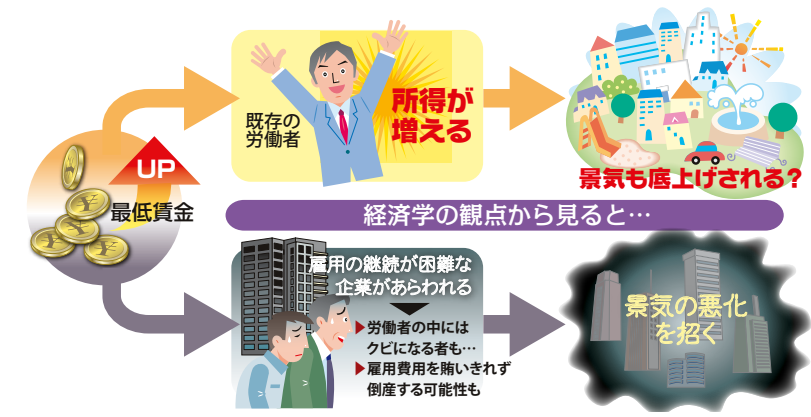
「高度な知の創成と的確な知の継承」。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。



奥平寛子

大学院社会文化科学研究科(経済) 准教授

OKUDAIRA Hiroko (34歳)
 ▶1980年 広島県広島市生まれ
 ▶2003年 The University of British Columbia (カナダ) に交換留学
 ▶2004年 大阪大学経済学部 卒業
 ▶2006年 経済学修士(大阪大学)
 ▶2007年 日本学術振興会特別研究員DC2(～2009年3月)
 ▶2009年 経済学博士(大阪大学)
 岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授



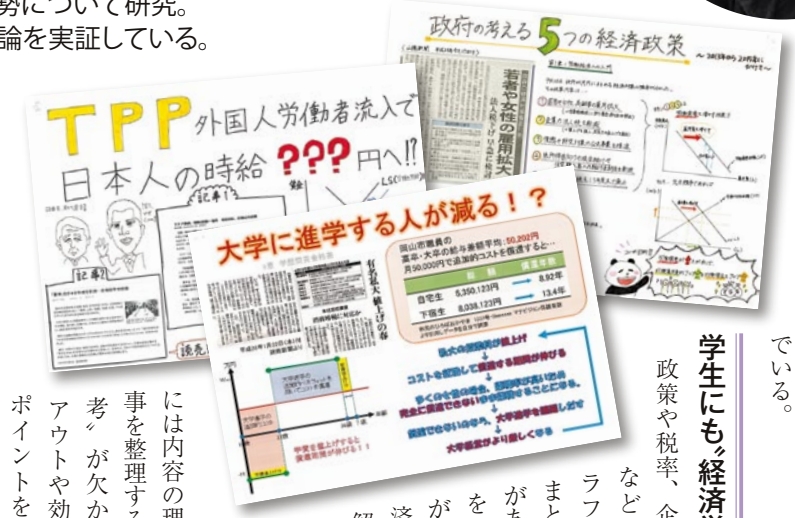
労働経済学とは
 そもそも労働経済学とはなにか。私たちの生活と密接に結びついたその学問の一端を紹介しよう。最低賃金が上がると労働者の所得が増え、景気が底上げされる...と推測する人は多い。しかし経済学では、最低賃金が上がるという雇用が困難になり経営が悪化、企業が倒産したり、一部の労働者が職を失うリスクが高まるという理論がある。

経済学の観点から考える
 日本では解雇に関する規制が厳しく、いくつもの条件を満たす必要がある。経済学の観点で考えると、雇用者が採用する労働者は業績への貢献度が不明な一方、簡単に解雇できないため、雇用そのものが業績悪化のリスクを含む。これを避けるため、採用を見送る雇用者が現れる恐れもある。奥平准教授は解雇規制をめぐらしたリスクを修士課程で研究し、法律的な問題として捉えられがちな解雇問題に経済学の観点から切り込んだ。さまざまな事例について独自の視点で研究を進め、改めて経済学の面白さや大切さに気づいたという。労働者の立場からすると決して「ウケ」のよい研究で

奥平准教授は、こうした理論を実証分析する研究者。最低賃金に関する理論では、経済産業省が行っている工業統計調査の個別データ(個票)を使い、企業の雇用や生産状況を共同研究で分析。数百万もの個票を調査し、理論が正しいことを確認した。「最低賃金を上げると見えないところで私たちの首を絞めていることを示した調査。労働経済学で考えると、最低賃金の上昇が良いことばかりではないことも分かる」と言う。

客観的データに基づき、冷静な目で労働市場を分析

労働者にとって良いと思われる制度も、結果としては労働者自身の首を絞めてしまうかもしれない。労働経済学が専門の大学院社会文化科学研究科の奥平寛子准教授は、労働者と雇用者をめぐる社会情勢について研究。膨大なデータを分析し、経済理論を実証している。



◀学生が作成したポスター

「経済学とは、理論の材料をそろえ、冷静に事象を分析する学問」と話す奥平准教授。その分析は日常生活の中でも役立つという。学生にも「経済学の面白さを知り、経済学的思考」を身につけて社会に出てほしい」と期待している。

学生にも「**経済学的思考**」を政策や税率、企業の雇用制度などについて、グラフや図を用いてまとめたポスターがある。労働経済学を履修した学生が新聞記事を経済学の観点から解説し、期待される経済効果やデメリットをまとめたもので、作成には内容の理解に加え、物事を整理する「経済学的思考」が欠かせない。レイアウトや効果的な配色でポイントを分かりやすく伝えることも評価の対象になる。「経済学とは、理論の材料をそろえ、冷静に事象を分析する学問」と話す奥平准教授。その分析は日常生活の中でも役立つという。学生にも「経済学の面白さを知り、経済学的思考」を身につけて社会に出てほしい」と期待している。

はないが、政策的な課題を整理するために絶対必要な研究で、「誰かがしなければいけない」という使命感を持って研究に臨んでいる。

中津智史

NAKATSU SATOSHI

工学部情報系学科2年

研究、スポーツ、趣味、特技...
学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。
そんなきらりと光る学生を、
同じ学生の目線から紹介する。



「強化」と「楽しさ」両立を目指す 囲碁部支える優しき部長

「良くない状況から、どのように逆転をはかるかが囲碁の醍醐味」と話すのは岡山大学囲碁部部長の中津智史さん（工学部2年）。

2013年12月23日から26日に、大学の囲碁日本一を決める団体戦、第57回全日本大学囲碁選手権が東京都の日本棋院で行われ、岡山大学囲碁部は見事3位に入賞した。同大会は地区予選を勝ち抜いた8大学が出場し、1チーム5人の選手がリーグ戦で優勝を争うもの。岡山大学は中四国地方の代表として出場した。

全日本大学囲碁選手権3位 岡山大学囲碁部

部員数は1年生6人、2年生8人、3年生6人、4年生10人、5年生以上（院生含む）10人の、計40人。普段は文化系クラブ棟3階にある部室で練習し、夏には合宿も行っている。第57回全日本大学囲碁選手権で4年連続3位に入賞した。



中津さんは「自分は、対局の序盤は負けていたが、後半で逆転して勝った。岡大の3位入賞がかかった対局で、大会の最終局でもあったから緊張した」と選手権を振り返る。

中津さんは小学2・3年生の時に、祖父に勧められたことがきっかけで囲碁を始め、その後、強いアマチュアの先生がいる地元（徳島県）の子供囲碁教室に通い、次第に囲碁にのめり込むようになった。中学校・高校時代は独学で練習していたという

中津さん。しかし、県大会でたびたび優勝し、全国大会に出場するなどして実力を着々とつけていった。

岡山大学囲碁部に入部したのは、他大学の囲碁部の知り合いから「岡大の囲碁部は強いから入部したらどうか」と勧められたのがきっかけだった。

囲碁部での練習は、先生に教えてもらうのではなく、部員同士で対戦して練習するのが基本。特に「実力者ぞろいの先輩たち」（中津さん）と対局を重ねて試合勘を磨きながら、

新聞などに載っているプロの棋譜を見て、打ち方を学ぶこともしているという。



▲練習風景

実力者の部員同士 対局で試合勘磨く

57回全日本大学囲碁選手権では、中津さんは「冷静さを捨て、がむしゃらに行った」結果、後半で見事逆転。岡山大学の3位入賞につなげた。

しかし、「今回の3位は先輩のおかげ。今後先輩は就活などで忙しくなり、一緒に練習してもらえない時間が少なくなるから、自分がその分勉強して先輩に強くなったと言われたい」と中津さんは話す。

そんな中津さんが、囲碁をやっ



▲試合風景

「囲碁に大切なことは自身が冷静さを保つこと。その上で相手を焦らせる戦略を考えることが必要」と話す中津さん。囲碁を始めてから、日頃から、物事を落ち着いてよく考えることを意識するようになったという。

しかし一方で、冷静さを捨てて成功することもあった。先の第3勝2敗だったので嬉しかった。全国大会出場は惜しくも逃したが、強い相手に勝てたことで自信がついた。

最後に、「部が強くなることは大事だけど、かたくなりすぎず、みんなが楽しく囲碁ができるように心がけている。練習以外にもゲームをするなど、部内は和気あいあいとしている。大学から始める人や女子部員もいて、初心者も大歓迎」と話した中津さん。やわらかな口調で囲碁への思いを語る一方、部を束ねる長として、自らの腕の向上に加え、囲碁部の発展を視野に入れていた。



インタビュー
岡山大学学生広報スタッフ
文学部人文学科2年
鹿森 沙恵香



◀スヴァールバル世界種子貯蔵庫

世界中のあらゆる植物の種子を冷凍保存する世界最大の施設「スヴァールバル世界種子貯蔵庫」(ノルウェー領スヴァールバル諸島スピッツベルゲン島)を2月25日、岡山大学資源植物科学研究所の佐藤和広教授が訪れ、同研究所のオオムギ種子575系統(各300粒)を貯蔵した。これらのオオムギ種子は、人類の食糧確保のために必要な品種改良の基礎となる重要な遺伝資源で、同貯蔵庫に保存することで、長期的な安全性を確保されることになる。

同研究所のオオムギ種子は、約70年にわたって世界各地から集められ、すでに失われた貴重な品種が多く含まれており、現在、文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクトによって国内外の研究者に分譲されている。特に日本、朝鮮半島、中国、ネパールなどの東アジア地域は、オオムギの多様性の大きな地域で、これらの保存と配付の中核となっている

日本初 スヴァールバル世界種子貯蔵庫にオオムギ種子を保存

TOPICS
Okayama University

同研究所のオオムギは、世界でも五指に数えられる貴重な遺伝資源とされている。



◀自然植物科学研究所が預託したオオムギ種子

オオムギ種子を預託する佐藤教授(右) ▼



佐藤教授は、同施設を管理するグローバル作物多様性トラスト(国連食糧農業機関と国際農業研究協議グループが設立)のMarie Haga事務局長の同席のもと、我が国最初の植物種子の預け入れを行った。

現在、スヴァールバル世界種子貯蔵庫には約80万種類の種子が保存されており、オオムギ種子もマイナス18度で保存される。同研究所では、今後、約5,000系統のオオムギの預託を予定しており、これらの全ての系統に含まれる遺伝子の多様性を解析して、不良環境などを克服するための基礎研究や新しい品種の開発に役立てる予定としている。



▲準優勝した岡山大学女子アイスホッケー部



◀準優勝を喜ぶ選手ら

TOPICS
Okayama University

女子アイスホッケー部が第1回日本学生女子大会で準優勝

岡山大学女子アイスホッケー部が11月22～24日、青森県八戸市で開催された「第1回日本学生女子アイスホッケー大会」に出場し、準優勝した。

アイスホッケーは、1チーム6人の選手が氷上でスティックを操り、パック(球技におけるボール相当)を相手方のゴールに入れ合う競技。本大会には全国から12チームが参加し、勝敗を競った。岡山大学女子アイスホッケー部は、全員大学からアイスホッケーを始めた初心者だが、週2～3回のペースで行う練習では、社会人チームと合同で行うものもあり、基礎から試合中のコンビネーションまでしっかり指導を受けている。同部の織田萌子さん(経済学部3年、大会時キャプテン)は、「普段からしっかりとコミュニケーションをとるよう心がけており、大会でもよく声が出ていた。来年は雪辱を果たし、ぜひ優勝したい」と話している。

フィギュアスケート坪井遥司さんが初優勝

学生氷上選手権



▲森田学長に衣裳を披露する坪井さん



▲学生氷上選手権の優勝を報告する坪井さん(右)

1月7～8日、北海道で開催された日本学生氷上競技選手権大会のフィギュアスケート男子で、岡山大学フィギュアスケート部の坪井遥司さん(マツチンプログラムコース3年)が合計209.84点で初優勝し、森田学長に成果を報告した。

前日行われたショートプログラムの71.18点で首位。翌日のフリープログラムでは、チャイコフスキー作曲の「白鳥の湖」にのせ、トリプルアクセルやステップなど1つずつ丁寧に表示。悪魔・ロットバルトをイメージし、男性らしく力強い演技で観客を魅了した。フリーでも138.66点でトップに立ち、見事優勝を決めた。坪井さんは、「次のシーズンにつながる良い演技ができた。ジャンプを気にして表現がおろそかになってしまふことが今後の課題」と話している。

TOPICS
Okayama University

生殖補助医療技術者(胚培養士)の養成や肺培養士へのリカレント教育、生殖補助医療技術研究を行う生殖補助医療技術教育研究センター(ARTセンター)の看板掲揚式が2月6日、岡山大学農学部III号館で行われた。

森田学長と同センターの奥田潔センター長(農学部長)が「胚培養士の養成は社会的急務。高度な知識と技術をもった胚培養士を育成したい」とあいさつ。阿部宏史教育担当理事と受精卵をイメージした丸い看板を掲げた。同センターでは、農学部が得意とする胚を扱う技術、医学部で培われている医学的衛生観念を合わせ、両学部が協力して独自のカリキュラムを策定し、胚培養士を目指す学生に不妊治療機関などにおけるインターンシップを盛り込んだ教育を実施する。

ARTセンター看板掲揚式を開催



看板を掲げる(左から)森田学長▶阿部理事、奥田センター長

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

12 December

9~11日 エネルギー環境新素材拠点「新規な物性とエレクトロニクス」の開拓を目指した界面科学に関する国際ワークショップを開催

9日 アクチニド研究センターは、異分野とアクチニド工学の融合について考える「第9回アクチニドシンポジウム」を開催



11日 地域との交流イベント「2013岡山大学つるかむデー」を開催。また同日から25日までマスカットニオン周辺でイルミネーションを点灯

17日 博物館と大学の連携について考える学芸員課程フォーラム地域の博物館と大学を開催

1 January

1日 耐震安全安心センターを設置

3日 大学院社会文化科学研究科の新納泉教授と資源植物科学研究所の馬建鋒教授が、地域社会への貢献や国際舞台での活躍が顕著な個人・団体に贈られる「第72回山陽新聞賞」の学術功労賞を受賞

7日 岡山大学病院は、高校生を対象とした講演会「最先端医療への道」を開催



1

7日 大学院自然科学研究科の高井和彦教授が第66回日本化学会賞を受賞

10日 メンタルヘルス対策の一環として本学全構成員に向けて「こころの健康宣言」を発表

14日 アフリカ地域の小学校教員など教育関係者が、本学教員の指導のもと初等理科教育を学ぶ研修がスタート。研修期間は3月7日までの約2カ月間

22日 地域総合研究センターは、今年度の活動成果を発表する成果報告会を開催

28日 「グローバル人材育成」推進フォーラムを開催



28日 日刊工業新聞社主催の「第12回キャンパスベンチャーグランプリ中国」学生によるビジネスアイデア提案コンテストで大学院自然科学研究科博士前期課程機械システム工学専攻の大学院生12人が提案した4件のアイデアが優秀賞1件、奨励賞2件、佳作1件を受賞

29~31日 ナノテクノロジーに関する世界最大の展示会「nano tech 2014」第13回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議に出展し、最も多くの関係者らと商談のポイントをとった団体に贈られる「nano tech」部門賞「ビジネスマッチング賞」を受賞

30日 キャリア開発センターの公認ゆるキャラが、小鳥をモチーフにした「いーちよ」に決定



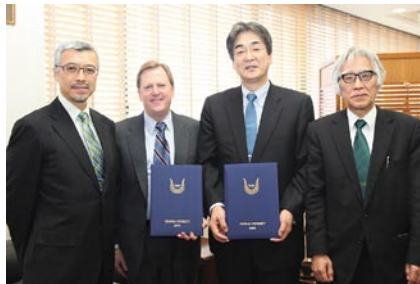
31日 経済学部で開講している「現代地方自治経営論講義」で岡山県の伊原木隆太知事が行政の課題や目指すべき方向について講義を実施



2 February

6日 生種補助医療技術教育研究センターの看板掲揚式を開催

6日 米国ウエイン州立大学と大学間協定を締結



7~23日 鹿田地区の鹿田遺跡発掘30年を記念し、同遺跡の出土品を展示する「鹿田発掘30年 弥生時代を語る」埋蔵文化財調査研究センターなど主催を岡山シティミュージアムで開催



19日 大学院社会文化科学研究科の倉地克直教授が、岡山県の文化向上に著しく貢献した個人・団体を称える「平成25年度岡山県文化賞」を受賞

20日 定例記者発表を開催

24日 大学院医歯薬学総合研究科の滝川正春教授が「平成25年度日本歯科医学会会長賞」を受賞

25・26日 平成26年度個別学力検査等前期日程を実施

3 March

7日 前期日程の合格者を発表



10日 優れた業績を挙げた若手研究者を顕彰する「岡山大学若手トップリサーチャー研究奨励賞」に岡山大学病院の江國大輔講師を選出し表彰

研究・臨床成果

■大学院医歯薬学総合研究科の藤原俊義教授らの研究グループは、腫瘍融解ウイルス「ニトロメライシン」が、休眠状態にある細胞周期を回転させることで、効率よく胃がん幹細胞を殺傷することを世界で初めて明らかにした。米国科学雑誌「Clinical Cancer Research」に掲載され、同誌の「Highlights」にも選出。12月・定例発表

■地球物質科学研究センターの中村栄三教授らの研究グループは、大規模な爆発的噴火を引き起こす酸性火成岩マグマは、ある程度以上の量が溜まれば、その浮力だけでもマグマ溜まりの天井を破壊して地表へ向かって上昇し、巨大カルデラを伴う大噴火を起こし得ることを発見した。国際科学雑誌「Nature Geoscience」に掲載。1月・臨時発表

■大学院自然科学研究科の吉井大志助、富岡憲治教授らの研究グループは、キヨロシウジョウバエを用いて、オスの一日の行動リズムがメスのリズムによって影響を受けることを明らかにした。また、メスの接触により、オスの脳内時計細胞に影響が現れることを世界で初めて突き止めた。米国のオンライン科学雑誌「PLOS One」に掲載。1月・臨時発表

■大学院医歯薬学総合研究科の松井秀樹教授らの研究グループは、悪性脳腫瘍が脳内に広がるメカニズムを世界で初めて特定した。米国の癌研究専門雑誌「Neoplasia」に掲載。1月・臨時発表

■大学院医歯薬学総合研究科の助川信太郎大学院生、宮脇卓也教授、長塚仁教授らの研究グループは、現在広く臨床で使用されている鎮静薬「デクスメトミジン」を局所に投与することにより、投与部位の炎症を抑制するという新たな薬理作用を世界で初めて明らかにした。国際雑誌「Anesthesia and Analgesia」に掲載。2月・臨時発表

■大学院自然科学研究科の楠本和大学院生、松本正和准教授、田中秀樹教授の研究チームは、高温高圧で氷が融ける新しいメカニズムを発見した。イギリス王立化学協会「国際科学雑誌「Physical Chemistry Chemical Physics」」に掲載。2月・臨時発表

■大学院医歯薬学総合研究科の公文裕巳教授、豊岡伸一教授、岡山大学病院の那須保友教授は、がん治療遺伝子「miR-101」による悪性上皮腫治療の安全性と効果を検証する臨床研究が、国の厚生科学審議会科学技術部会で承認され、4月にも患者への投与を始める。2月・臨時発表

■医歯薬学総合研究科の古田和幸助教らの研究グループは、樹状細胞に発現し病原体などの抗原提示を担うタンパク質である、主要組織適合抗原クラスIIの、細胞における輸送と分解の制御機構を解明した。「米国科学アカデミー紀要」に掲載。2月・定例発表

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授らの研究グループは、マウス脳細胞を利用して幹細胞の作り出す環境が、がん細胞の悪性化や転移を促進する可能性があることを世界で初めて明らかにした。米国がん研究科学雑誌「American Journal of Cancer Research」に掲載。2月・定例発表

■資源植物科学研究科は、自然生命科学研究支援センターと共同し、東日本大震災に伴う原発事故による放射能汚染農地において、放射性セシウムの土壌から植物体への移行係数について、野生植物99種について調査するとともに、雑草群落への移行係数を推定した。日本植物学会の国際学術誌「Journal of Plant Research」に掲載。2月・定例発表

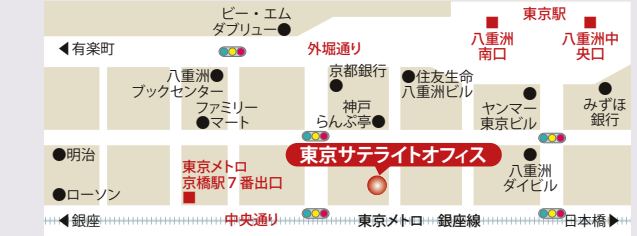
■大学院自然科学研究科の奥田潔教授らの研究グループは、妊娠時のホルモン分泌をつかさどる黄体が、細胞の肥大のみではなく、細胞の増殖によっても成長することを世界で初めて発見した。米国のオンライン科学雑誌「PLOS One」に掲載。3月・臨時発表

■東京サテライトオフィスとは
岡山大学は東京都中央区京橋に、東京サテライトオフィスを設けています。JR東京駅八重洲南口より徒歩5分、東京メトロ銀座線京橋駅7番出口より徒歩2分の場所にあり、東京駅付近を発着場所とする高速バスの利用も便利です。オフィスには教職員が在席しており、学生・同窓生を中心にご利用いただいています。

■東京サテライトオフィスのスタッフより皆様へ
キャリア開発センター准教授 宮道 力 (本学法学部同窓生)
学生は大学の財産であり、同窓生は大学の誇りです。この首都圏では、東京サテライトオフィスを拠点として活発に同窓会活動が行われています。また、同窓生の皆様には「より良い環境を後輩に！」を合言葉に、就職支援にも惜しみないご助力をいただいています。
新入生の皆さん、有意義な学生生活を過ごしてください。先生方も同窓生の皆様も、一生懸命に頑張る皆さんを心から応援して下さることでしょ。

岡山大学東京サテライトオフィス
 ▶住所：東京都中央区京橋1-5-5 京橋共同ビル1階
 ▶業務時間：通常/9:30~18:15 (土日祝休日除く)
 ▶TEL: 03-6225-2905 ▶E-mail: o-tso@adm.okayama-u.ac.jp

※東京サテライトオフィスでは、月に1回、メールマガジンを発行しております。
ご希望のある方は本メールアドレスへご連絡下さい。



岡山大学生協同組合

最近、本を読んでいますか?!先日、なんと大学生の4割が「読書時間ゼロ」との少しショッキングな報告*がありました。近年増加する若者の活字離れを食い止めようと、岡山大学生協は2002年から「学生にすすめる本」という冊子を配布しています。冊子に掲載しているのは、岡大の教職員が岡大生のために厳選したおすすめの本。多くの人に楽しんでもらえるよう、趣味の本から授業で役立つ専門書まで、ジャンルを問わず紹介しています。

今年3月1日に発行した2014年版には、62名の教職員から推薦のあった過去最多の127作品を掲載。掲載されている中で入手可能な本については、生協ブックストアで常時取り揃えています。冊子を見て本を購入する学生もたくさんおり、昨年は、生協会員が15%オフ(10%は電子マネー「momoca」へチャージ、5%は現金値引き)で、紹介された本を購入できるフェアを開催しました。今年も6月に行う予定なので、要チェックです!

*第49回学生生活実態調査(全国大学生生活協同組合連合会調べ)における報告

学生にすすめる本2014

趣味の本から専門書まで!!
冊子に載っているのは、人生の指針や糧になるような選ばれた本ばかり。本を身近に感じ、本との出会いを大切にしたいとの思いがこもっています。SNSやインターネットでは得られない体系的な情報を得られるのが、本の魅力。きっと自分の世界を広げたり、悩みを解決するのに役立つはず。これを機に、みなさんも「本のある生活」を見直してみたいかがでしょうか。



教職員厳選の

「学生にすすめる本2014」▶掲載の本
 昨年のフェアの様子
 マスカットユニオン1階ブックストア▼
 岡山大学の教職員が推薦
学生にすすめる本 15%OFF
 期間限定:6月14日(金)~7月15日(金)まで

「学生にすすめる本2014」に関するお問い合わせは
 岡山大学生協同組合ブックストア ☎ 086-256-4100 まで